

授業概要

本科目は、全学共通科目として、全学部学科の1・2年次生に配当された科目である。したがって、全学の学生に向けた、日本文学の入門編としての意味を持つ内容とする。

そこで、よく知られている芥川龍之介の『羅生門』から話を始めて、日本文学の古典分野について講義することとする。芥川龍之介が、材を得て創作した作品の内容を見ていながら、芥川が例として挙げた、日本古典文学の代表的作品をいくつか見ていくことにより、日本文学の古典に関する入門編を目指すこととする。

授業計画

第1回	導入、芥川龍之介と『羅生門』
第2回	『羅生門』の基となった話
第3回	『今昔物語鑑賞』「野性の美」
第4回	『今昔物語集』の説話(1)
第5回	『今昔物語集』の説話(2)
第6回	『今昔物語集』の説話(3)
第7回	「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(1)
第8回	「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(2)
第9回	「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(3)
第10回	「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(4)
第11回	これまでのまとめ
第12回	「簡古な苦しみ」 『大鏡』(1)
第13回	「簡古な苦しみ」 『大鏡』(2)
第14回	「簡古な苦しみ」 『大鏡』(3)
第15回	全体のまとめ
第16回	定期試験

到達目標

日本文学(古典)の入門篇として、いくつかの作品の方向性の違いが理解してもらえることを目指す。古典文学とは優雅で優美な貴族の世界を描くものという一般的イメージとは、全く違う方向性の古典文学作品もあったということを理解してもらいたい。

履修上の注意

全学共通科目として、全学部の学生に向けた科目であることに留意して、わかりやすい講義をするつもりである。ただし、授業中に他の受講生への迷惑になるような学生には出て行ってもらうので、真面目な受講をお願いしたい。

予習復習

授業の前に目を通しておいてもらいたい資料は事前に配付するので、その際には是非とも一読して授業に臨んでもらいたい。復習としては、特に必要ないと思われるが、わからなかった場合には積極的に質問をお願いする。

評価方法

ほぼ、定期試験80%、受講態度20%という割合で総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。適宜授業中に資料を配付する。

授業概要

『百人一首』を講読します。

現代でも、かるたなどで親しまれている『百人一首』は、奈良時代から鎌倉時代初期までの百人の歌人の和歌を一首ずつ選び集めた歌集で、藤原定家の撰と伝えられています。

この授業では、毎回テーマを定め、修辞や表現法に関する基礎知識を学びつつ、和歌を鑑賞していきます。また、奈良時代から鎌倉時代にいたるまでの日本文化や生活様式（衣・食・住）の変遷についても、併せて講義します。

和歌は言葉による日本の遺産であり、世界的に見ても非常に独自性の強い文芸です。『百人一首』を通して、古代の日本語表現の多彩さや、現代の私たちにも通じる美意識、価値観を学ぶ機会としてください。

授業計画

第 1 回	奈良時代から鎌倉時代初期までの和歌史概観
第 2 回	『百人一首』の成立と藤原定家について
第 3 回	天皇の和歌（天智天皇、持統天皇）
第 4 回	時間の比喻（柿本人麻呂、伊勢）
第 5 回	旅路の歌（安部仲麻呂、蝉丸、小野篁）
第 6 回	「見立て」の歌（文屋朝康、凡河内躬恒）
第 7 回	平安朝歌合の名勝負（平兼盛、壬生忠見）
第 8 回	和歌が作り出す女性のイメージ（小野小町、和泉式部）
第 9 回	「正述心緒」の歌（藤原義孝、藤原道雅、儀同三司母）
第 10 回	「寄物陳思」の歌（陽成院、源重之、崇徳院）
第 11 回	僧侶たちの自然観（喜撰法師、大僧正行尊、西行法師）
第 12 回	宮廷女房たちの生活と和歌（清少納言、紫式部、伊勢大輔）
第 13 回	情念の恋歌（藤原定家、式子内親王）
第 14 回	良暹法師の和歌と中世的美意識
第 15 回	在原業平は本当に絞り染めを詠んだのか
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ①和歌文学の基礎知識（修辞や基礎的文法）を理解する。
- ②日本古典文学史における『百人一首』の位置づけや、一つひとつの和歌の内容、および表現の特徴について、自分の言葉で説明できる。
- ③上記①②を通して、中等教育学校における国語科授業に資する知見を身につける。

履修上の注意

毎回、授業終了時にワークシート（講義内容の要約と、興味をもったこと、疑問に思ったことを記す）を提出していただきます。また、授業の中で、適宜受講生の皆さんの意見や感想を求めますので、主体的な学習意欲をもって授業に臨んでください。

予習復習

予習：授業時に、次回扱う和歌を指定するので、テキストを下読みして分からないところをチェックする。

復習：ノートやプリントをまとめ直し、分からなかった点は教員に質問するなどして明らかにしておく。

評価方法

授業への参加態度 30%、毎回提出するワークシート 30%、期末テスト 40%を目安として総合的に評価します。

テキスト

- 教科書名：『百人一首（全）』（ビギナーズ・クラシックス日本の古典）
- 著者名：谷 知子
- 出版社名：角川ソフィア文庫
- 出版年：2012年

参考文献：吉海直人『百人一首への招待』（別冊太陽 日本のこころ 213、平凡社、2013年）の他、授業時に適宜紹介します。

授業概要

日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成を取り上げます。「眼力」で泥棒を撃退するなど、とにかくユニークな逸話がもりだくさんの川端康成。作家像と、その独創的な感性や特異な境遇から生み出された作品の数々を、講義していきます。手のひらにのるくらい小さな短編小説のほか、『伊豆の踊子』を中心にとりあげ、夏目漱石から受けた影響、松本清張に与えた影響といったことも考えていきます。まったく同じ舞台設定で、文豪と文豪が対決したら・・・？どちらの作家の作品のほうが優れているのか、文豪対決を楽しみながら、それぞれに味わってみましょう。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	川端康成について（生い立ち、ユニークな人物像、交友関係など）
第 3 回	文章の特徴を学ぶ
第 4 回	「掌の小説」を読む①弱き器
第 5 回	「掌の小説」を読む②火に行く彼女
第 6 回	『伊豆の踊子』を読む①踊り子のモデルと「掌の小説」
第 7 回	『伊豆の踊子』を読む②被差別について
第 8 回	『伊豆の踊子』を読む③風景描写について
第 9 回	文豪 vs. 文豪①川端康成と夏目漱石
第 10 回	文豪 vs. 文豪②『伊豆の踊子』と『草枕』
第 11 回	文豪 vs. 文豪③川端康成と松本清張
第 12 回	文豪 vs. 文豪④『伊豆の踊子』と『天城越え』
第 13 回	ノーベル賞講演「日本の美しい私」と『雪国』
第 14 回	ノーベル賞講演「日本の美しい私」と国鉄の「ディスカバー・ジャパン」
第 15 回	まとめ
第 16 回	学期末試験

到達目標

日本を代表する作家について学び、これから文学を学んでいくための入門とする。
また、『伊豆の踊子』などの作品を細部まで精読する力を身につけると共に、『伊豆の踊子』と『草枕』、『伊豆の踊子』と『天城越え』といった作品同士の影響関係を学ぶ。

履修上の注意

関心があれば誰でも受講可能。私語厳禁。

予習・復習

授業前に配布するプリントを熟読の上、出席すること。

評価方法

授業時の平常点および試験の点数結果にもとづいて評価する（試験70%、リアクションペーパー30%）。
評価は、3分の2以上の出席を最前提とする。

テキスト

- 教科書名：『読んでおきたい日本の名作 伊豆の踊子ほか 川端康成 I』
- 出版社名：教育出版
各回、プリントを配布。